

男女共同参画って何！？～男女ともに参画する組織づくりについて～

第1回目（平成30年7月3日）

男女共同参画について、“そもそも何？”“なぜ必要なの？”を犬塚教授から講義頂き、男女毎グループに分かれて、「身近な生活の中でおかしいかもしれないこと」を検討・発表しました。

家庭でのおかしいな!?

参加者意見

- ・男性の「家事・育児は女性に」という意見にカチンときた。
- ・家庭は家族全員の協力が必要であり、男性にも女性のことを理解してほしい。

犬塚先生コメント

- ・20代以下の世代であれば、学校で教育を受けています。
- ・共働き家庭における平日の家事時間について、女性は4～5時間だが、男性は30～40分。男性の積極的な家事参加が必要です。

職場でのおかしいな!?

参加者意見

- ・お茶出しについて、勤めていた会社でも、一時期は女性がお茶出しと清掃を行っていたが、クレームが付き、全員で行うようになった。

犬塚先生コメント

- ・なぜ、変わったかを考えることが大切です。
- ・管理職や役員の男女比は、業種によりけりですが、男性が圧倒的に多く、女性比率はアラブ諸国並みの低さです。

第2回目（平成30年8月7日）

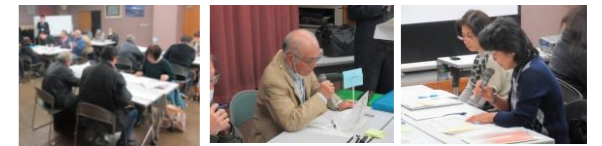
今回は実際に身近な問題に置き換えて考えてみることにしました。自治会活動（組織のあり方、行事・事業）について、“問題点やおかしな点とその根本的な原因・要因”について、話し合いました。

自治会活動	問題点・おかしなところ	根本的な原因・要因
組織の運営	<ul style="list-style-type: none"> ●役員が年齢順に回ってくる。 ●自治会の行事、仕事、会議が多すぎる。 ●連合会役員は男性と決めつけられている風土がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人々が減少しているのに役の数・行事が減らない。 ○役員は男性が多く、女性が参加しにくい。 ○若い人を育てていくためのシステムができていない。 ※女性を育成するシステムも同様。
行事事業やり方	<ul style="list-style-type: none"> ●通年の各種団体事業は、例年とおりの事業を行うことが慣例となっている。 ●進め方を変えるのに、反対が多くなる。 ●1年任期のため、引継事項に追われ、自分の考え方を出すのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人数が少ないのに他地区と同じことをしている。 ○コミの行事を減らすことに抵抗する人がいる。 ○自分の考えを出す時間・ノウハウがない。

第3回目（平成30年9月26日）・第4回目（平成30年12月5日）

第3回目の講座から、男女共同参画について、深まってきた知識を自治会運営に活かします!!

「自治会の組織・運営・活動などの課題」について、“今後どうしたらいいか？”“何か変えるところはるか？”を具体的に検討し、みんなで共有し、最終講座に向けて、約2か月の間に取り組む改革事項を検討しました。第4回目は、実際に取組んだことについて、グループごとに自己評価を行い、犬塚先生から講評を頂きました。



グループ	課題	自己評価	理由	犬塚先生の講評
A 西井出・連合自治会	自治会の下部組織の統合	C	<ul style="list-style-type: none"> ●すこやか会・育成の業務内容を把握できていなかった。 ●それぞれ個別の補助金で運営しているため、統合は不可能。 	組織の成り立ちを知ることができて良かったと思います。
B 根古屋・連合自治会・社協	自治会行事の見直し 自治会長の負担軽減	C	<ul style="list-style-type: none"> ●行事の見直しは、自治会行事、連合自治会行事、市の委託事務が重なっているので多忙で難しい。 ●女性参画できないのは、介護・家事等一括りできない事情がある。 ●事務分担で負担軽減するには、総会・規約の改定が必要で難しい。 	難しい原因を探り、どうしたらいいのかを考えてみて欲しい。例えば、行事が重なり見直しが難しいのであれば、なぜ行事が重なるのかを探り、どうしたらいいかを検討してみたらどうか？
C 平沼・荒久	定例会の削減	C	<p>自治会の定例会が毎月1日 ↓ 出欠の取りまとめなどがあり、減らせなかった。 ↓ 逆に、（婦人会）支部長の仕事は増えた。</p> <p>※会議時間は、15分以内で終わらせると宣言し、そのとおり実施 ※取りまとめの依頼等があり、会議の回数を減らせなかったが、毎年あるような出欠の取りまとめについては、前月に依頼をかける等前倒しをして取り組むことで、会議の回数も減らせるかもしれない。</p>	B評価だと思います。会議の回数を減らせなかったことよりも、会議時間が減ったことを評価すべきです。また、今後の対策として、会議回数を減らすために前倒しで取り組むことができるものは前倒しで取り組むという改善策も考えており、その点も重要です。
D 石川	行事の削減	A	<p>アンケートを実施 10月：アンケート案づくり 11月：アンケート回答依頼（区民全157戸対象） 12月：アンケート回収及び集計（133戸回答/全157戸）</p> <p>※アンケート集計結果をもって副会長と相談し、方向性を決定予定。その後、総会に諮って提案する。</p>	アンケート結果のデータをまとめて、改革の基礎としようとしている点が良いです。前任のやり方で取り組み、そのやり方を改革しようという点も、データに基づいていて、説得力もあってより良いです。
E 東井出・PTA	自治会長・役員の負担軽減	C	<p>分業化する試案は考えたが具体的な行動が出来なかった。 自治会長・副自治会長の仕事の一部（資料づくり・会計事務）を専門職を設ける予定だったが、班長会に提出できなかった。</p> <p>↓</p> <p>1月の定例会で相談したいと考えている。その後、評議委員会に相談し、来年度準備委員会を設立したい。</p> <p>※班別バレーボール大会の存廃について、アンケートを取ったところ、廃止を希望する声が97%になったため、今年度は廃止した。</p>	B評価だと思います。今後の方針や実際にアンケートを実施し、結果を反映している点が良いです。

令和元年度 男女共同参画地域フォローアップ事業

この事業は、平成30年度に実施した「男女共同参画地域づくり講座」を踏まえ、地域におけるさらなる男女共同参画意識の定着を図り、継続的に男女共同参画活動の実現サポートするため実施しています。

浮島地区の皆さんには、引き続き、「地域活動」において、男女共同参画の実践がどのように進んでいるか？という視点で、“前年度から取り組んだこと・これから取り組んでいきたいこと”を平成30年度に引き続き、静岡県立大学 国際関係学部 犬塚協太教授とともに全2回講座にてアドバイスをいただきました。

第1回目では、平成30年度の最終講座にて宿題としていた「各自治会の課題への取組」の振り返りを行いました。結果として、全戸アンケートを行い、行事を減らすことができたなど、困難なことに果敢に取り組み、実際に行事を減らし、自治会の負担を軽くできた地区もありました。

その後、約4か月の間に、各自治会が様々なことに取り組み、その成果を第2回目で発表しました。

違反ごみの取り締まりに防犯カメラを活用したり、婦人会と協力してゴミステーションの管理を行ったり、男女共同参画の視点に立った活動を行っていました。

最後に今後も取り組んでいきたいことを検討・発表して、2年間の講座が終了しました。



犬塚教授のコメント



犬塚教授

地域での男女共同参画の意義とその取組の重要性への理解が大変進んだのではないのでしょうか。課題の取り上げ方や実践を通して、男女共同参画を地域活動に取り入れていくことの意義や視点の重要性については、着実な定着ができたと思います。

それぞれの自治会が課題に対して取り組み、例えば、全戸アンケートを実施し、地域の意見を反映した施策を実施するなど成果が表れています。

実現に至らなかった案件もお聞きしましたが、案件の成立も大事ですが、自らが動き出し、地域の人を巻き込んで課題解決に当たる姿勢が重要だと考えます。是非、他団体や他地域にも広めて頂きたいと思います。



発行：沼津市 企画部 地域自治課 協働推進係

〒410-8601 沼津市御幸町16-1

TEL：055-934-4807

FAX：055-931-2606

Mail：kyodo@city.numazu.lg.jp

(令和2年3月発行)



沼津市男女共同参画情報誌 特別号

ハーモニー

本市では、地域の皆さんの協力を得ながら、様々な地域活動を通して、男女共同参画意識の浸透や定着化を目的に取り組んでいます。平成30年度・令和元年度は、浮島地区を対象に男女共同参画の視点の必要性について認識を深め、男女ともに地域活動に参画できるよう、講演やワークショップを行いました。

今回、この2年間の浮島地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成いたしましたので、皆さんにお届けします。今後の浮島地区の地域活動の参考にしていただければ幸いです。

平成30年度 男女共同参画地域づくり講座

講座には、連合自治会・単位自治各会長、副会長、婦人会、地区社協、健やか会、コミュニティ推進委員、小中学校PTAの方を中心に、約30人の皆さんにご参加頂きました。

静岡県立大学の犬塚教授を講師にお招きし、前半は、男女共同参画の基礎知識とグループワークを中心に活かせる男女共同参画の視点を学び、後半は、視点を地域活動全体に向け、地域活動における男女の偏りのある組織やジャンルなどを洗い出し、その解消法についてワークショップを行いました。



犬塚教授の講演の様子

	開催日	講座内容
第1回	7月3日(火)	【講義】 男女共同参画の基本的な知識や、なぜ地域でも男女共同参画の視点が必要とされているかを学びました。
第2回	8月7日(水)	【グループワーク】 自治会組織や活動等の現状を把握し男女共同参画社会の実現に向けての課題を探りました。
第3回	9月26日(水)	【グループワーク】 第2回講座で討議した課題の解決に向けた検討を進め、来年度の各自治会組織や活動に反映できるような具体策を考えました。
第4回	12月5日(水)	【発表・講評】 前回講座までに検討した各自治会での具体的な取組み及び当該取組み状況について発表し、講評を頂きました。